

# えくび通信

令和六年九月号(第七十五号)

発行  
恵久美を元気にする会



## 水生生物の繊細な生態系に触れる

### 恵久美を元気にする会「水生生物ウォッチング」開催

令和六年八月十八日(日)  
西沼寺南側の神寄川で恵久美を元気にする会主催、恵久美環境保全会協力の三回目の水生生物ウォッチングが行われました。目的は子供達に川の生き物と触れ合う体験を通し



て身近な自然への関心を高めてもらおう機会を提供することです。参加者は小学生十名と保護者。今年は前回(令和四年七月)より一ヶ月ほど遅い実施となり、長い晴天と高温から川底や藻の上には泥が堆積し、藻や石の間からタモ網で生き物を探す作業には難儀などがありました。

そんな中、ヌマエビとメダカは簡単に採集でき、川のごく探してもこの2種ばかり目立っていました。高学年の子達と大政浩史さん(岡田西)の頑張りでモクスガニや魚ではオイカワ、ブルーギル、ヨシノボリ、タナゴも採集できました。石の裏側にはカワカイメンやナミウズムシ、ヒルなど付いていました。ナミウズムシ(通称プラナリア)については知っている子達もい



て、卵を産むのか、何を餌にしたら良いのかなど質問され驚きました。前はテナガエビやミズカマキリも採集できましたが、今回は大型の水生節足動物は見つかりませんでした。真夏の観察会でしたので、無理せず時間も短縮して終わり、環境評価の観点については省略しました。

最後に採集できた生き物は生物の五つの王国(原核生物界、原生生物界、植物界、菌界、動物界)の一つ、動物界の生き物で、海綿動物のカワカイメン、扁形動物のナミウズムシ、環形動物のシマイシビル類、イトミミズ類、軟体動物のタイワンシジミ、ドブシジミ、カワナナ、節足動物のミズムシ、ミナミヌマエビ、モクスガニ、脊椎動物のオイ

カワ、タナゴ類(ヤリタナゴとアブラボテの交雑種と思われる)、ブルーギル、ヨシノボリ類、視認でコイ、ナマズを確認できたことを説明しました。



ヤリタナゴとアブラボテの交雑種ヤリボテと思われるタナゴ

今回も大政浩史さんが庭先の作業場と水場を提供され、テントやテーブルを準備していただいた元気にする会、恵久美環境保全会の皆さんの力があつて実現できたと感謝しています。川の様子は日々変化しています。田や畑と密接に関連する川ですので春や秋には違った生き物に出会えるかもしれませんね。

元愛媛大学教育学部名誉教授

家山博史

自然環境保全・景観形成…  
地域の環境向上に貢献する

## 恵久美環境保全会

農業・農村は、土地の保全、

水源の涵養、自然環境の保全、  
良好な景観形成など多面的な  
機能があり、これらの利益は  
住民全員が享受しています。

しかし、この恵久美においても  
も農業者の高齢化、担い手の  
減少、非農家との混住化が進  
み、農村をめぐる構造の変化  
が生じており、従来から行っ  
ていた地域の共同活動が難し  
くなってきています。また、  
農用地、農道、水路の保全面  
理に農業者の負担が、今後増  
すことが心配されています。

地域の共同活動を支援す  
ること、水路、農道の改修等  
を通して農村・農業の持つ多  
面的機能が適切に発揮される  
ことを後押しする「多面的機  
能支払交付金」という国の制  
度があります。地域の活動組  
織が自ら、事業の計画・実施・  
報告をすれば、補助金が活動  
組織に交付されます。恵久美  
でも活動組織を立ち上げ「恵  
久美環境保全会」として、様々

